

研究紀要

1 研究主題

夢の実現に向けてたくましく生きる生徒の育成
～学習意欲を喚起する鬼怒中スタイルの学習を通して～

2 主題設定の理由

知識基盤社会の到来やグローバル化の進展など社会が急速に変化する中、次世代を担う子どもたちには幅広い知識と柔軟な思考に基づいて判断できる変化に対応する能力や資質、「生きる力」が一層求められている。一方、国内外の学力調査の分析結果から、思考力・判断力・表現力に課題が見られると報告されている。学習指導要領総則では、生きる力をはぐくむことを目指し、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実を求めている。

本県においては「確かな学力の育成」が課題であり、生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせ、自ら学び考える力などの「生きる力」をはぐくむことをねらいとしている。

本校の生徒は、与えられた課題については素直に、そして継続的に取り組むことができる。授業にも積極的に参加している。生徒の実態調査から、授業にはおおむね満足している生徒が多いのに対して過半数以上の生徒が自己学力には満足していないという結果であった。また、家庭学習などの学習習慣や学習している内容に関しては個人差が大きく、学力の二極化が見られる。全員が基礎的・基本的な知識や技能が身に付いているとはいいきれず、改善を要する状況にある。全国学力・学習状況調査や県学力診断のためのテストでは、文脈を読み取る力や数学的な見方や考え方、科学的な思考に関する力が不足していることが分かった。「思考力・判断力・表現力」を高めるためには、その土台となる基礎的・基本的な知識や技能の定着が不可欠であると考えられる。

そこで、学習課題を明確にして見通しのもてる授業を展開するとともに学力の二極化にも対応できるTTや少人数指導を取り入れることとした。また、授業と家庭学習の内容を連動させたり、既習事項を確認して活用したりして授業を展開することにした。このような鬼怒中スタイルの学習を確立し、生徒1人1人がわかる喜びやできる体験を通して学びを実感し、学習意欲を高めることで基礎・基本が定着し、本校の教育目標の達成につながると考え、本主題を設定した。

3 研究のねらい

家庭学習や既習事項と授業とを連動させ、見通しをもって学習することを通して、学習意欲を喚起し、基礎・基本を習得させる指導の在り方を究明する。

4 研究の仮説

【仮説1】 授業と家庭学習を連動させるとともに、授業の始めに家庭学習の内容や既習事項、本時の内容に関連する事項等を確認し、終わりに振り返りをすれば、学習意欲が高まり、本時の学習内容がわかりやすくなり、基礎・基本の習得にもつながるであろう。(鬼怒中スタイルⅠ)

【仮説2】 学習課題を明確にして一貫した学習の流れをつくとともに、個に応じたTTや少人数指導を効果的に取り入れれば学習内容を理解し、わかる喜びが得られ、学びを実感し、さらなる学習意欲の向上につながるであろう。(鬼怒中スタイルⅡ)

5 基本的な考え方と手立て

学校教育目標 「知性を磨き、心豊かでたくましい生徒の育成」～夢の実現に向けて生きる力を～

〇めざす生徒像・・・「強み」をもった生徒 ～誇りをもって輝く鬼怒中生～

- <生徒の強み>
- ・自ら学び、自ら考え実践する生徒
 - ・豊かな心を持ち、思いやりのある生徒
 - ・心身を鍛え、たくましく生きる生徒

鬼怒中スタイル

- Ⅰ (1) 授業と家庭学習を連動させた学習スタイル
(2) 3問テストによる家庭学習の内容や既習事項、本時に関連する事項の確認と振り返りのある授業
- Ⅱ (1) 学習課題が明確で、学習の流れがわかる授業
(2) 生徒一人一人の個に応じた指導

基礎的・基本的な
知識・技能の定着

思考力
判断力
表現力

学習意欲の喚起
(わかる喜び・学びの実感)

6 研究の実践

授業研究部の取組

仮説に基づいた授業研究・検証を行う。

【仮説1への取組】

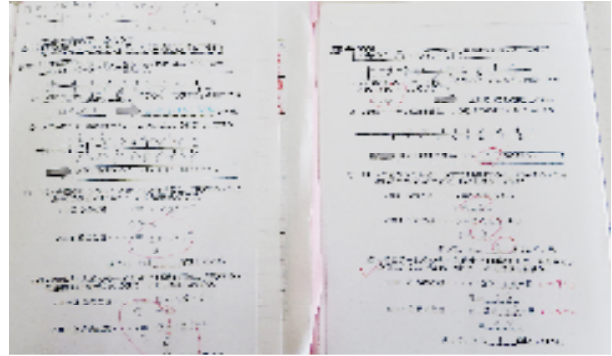
導入時の3問テストで既習事項の確認と、展開時に家庭学習との連動を図る。
 まとめや次時予告で家庭学習の内容を提示し、学習内容の定着と次時の学習への意欲につなげる。

(1) 3問テストによる既習事項の確認



(2) 家庭学習との連動（別紙資料）

（左）ワークシート （右）予習プリント



【仮説2への取組】

<基本的な授業の流れ>

3問テスト・導入

（既習事項や家庭学習と
 課題との関連付け）



展開

（課題提示（明確化）と家庭学習と
 の連動）



まとめ



振り返り・次時に関する
家庭学習内容の提示

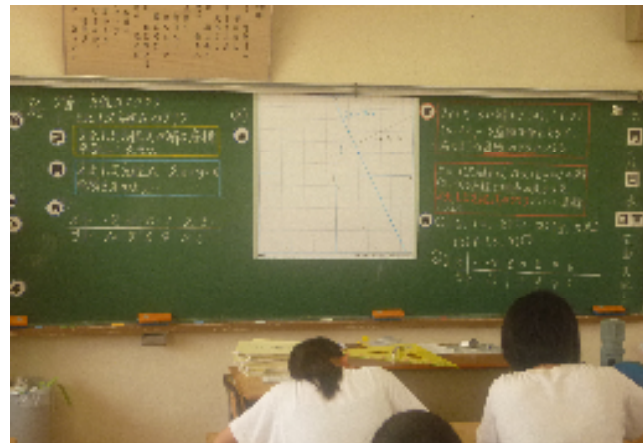
(1) 学習順序プレート

（黑板磁石）



「課題、問題、見通し、自力解決、確認、まとめ、練習、振り返り、次時予告」等のプレートを全教室に準備して、各教科の特性を生かしながら、「課題把握（学習のねらい）」から「本時のまとめ・家庭学習の提示」まで統一したスタイルで授業を展開する。

(2) 構造的な板書（一貫した学習の流れ）



(3) 個に応じた指導



数学科 習熟度別学習



理科 実験方法別グループ学習



英語科 選択課題によるペア学習

【各教科の取組】

英語

- 単元名
「Gulliver's Travels」
- 学習課題
「There is (are)～. を使って身のまわりのことを表現しよう」
- ☆家庭学習で自分の部屋にあるものを I have ～. を使って英文に書いてくることで、本時の内容へとつなぐ。
- ☆「There is～」で表現し、既習事項と比較することで文型の定着を図る。



国語

- 単元名
「わかりやすく説明しよう」
- 学習課題
「自分の『自慢したい場所 No 1』を書こう」
- ☆家庭学習としてマッピングに使う言葉を書いてくることで本時の学習につなげる。
- ☆導入で家庭学習の内容や前時の学習を振り返り、本時の「自分のお気に入りの場所を書く」ための手がかりとする。



数学

- 単元名
「文字を使った式の利用」
- 学習課題
「文字を使った式を利用して、正方形に並べたマグネットの総数について説明しよう」
- ☆家庭学習として先行学習のプリントを配付し、事前に自分の考えをまとめることで、授業での話し合い活動の充実を図る。
- ☆3問テストで既習事項のV字形のときを振り返り、本時の手がかりとなるようにする。



社会

- 単元名
「九州地方」
- 学習課題
「さんご礁の環境保全とその利用にはどのような特色が見られるのかを調べてみよう」
- ☆家庭学習の内容や既習事項、様々な資料を活用してグループ内で協力して調べてまとめ、発表することで学習内容の定着を図る。
- ☆3問テストを活用して、沖縄のことで知っていることを発表させ、本時の学習の見通しをもたせる。



理科

- 単元名
「化学変化と物質の質量」
- 学習課題
「化学変化の前後で質量はどう変化するのだろうか」
- ☆家庭学習として事前に本時の実験についてのプリントを配付し、実験の進め方や考え方の手がかりとなるようにする。
- ☆3問テストで前時に扱った酸化の化学変化について振り返ることにより、本時の実験につなげ、話し合い活動の充実を図る。



学習基礎部の取組

学習環境の整備、学習の手引き、家庭学習の習慣化を図る準備を行う。

☆ 家庭学習コーナー



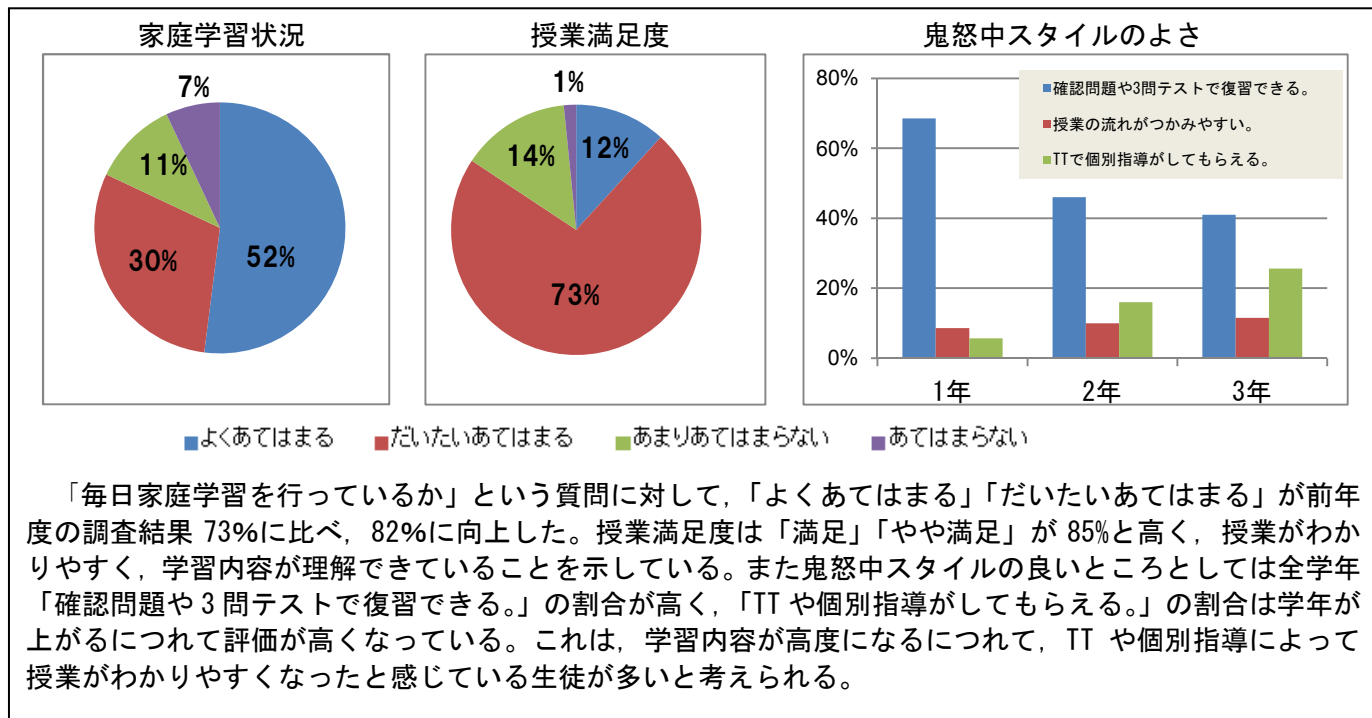
各学年の掲示板に設置し、家庭学習のポイントや手引き、テスト計画を掲示し、見通しをもって充実した内容の学習に取り組めるようにする。

また、参考となる生徒の各教科の家庭学習ノートを「Best ノート」として紹介し、学習のしかたの定着や学習意欲の喚起を図る。

☆ 家庭学習強化週間や パワーアップタイム（放課後）の取組



定期テスト2週間前には、各教科から課題を出して、より内容の濃い家庭学習ができるようにするとともに家庭学習の習慣化を図る。テスト前休部期間には、放課後自習教室（パワーアップタイム）を開設し支援することによって、学習の習慣化と学習意欲の向上を図る。



7 研究の成果と今後の課題

【成果】

- 家庭学習と授業とを連動させたことにより、学習内容の見通しや疑問点をもった状態で授業に臨むことができ、授業の内容をわかりやすいと感じる生徒が増え、学習意欲の喚起につながった。
- 個別指導により、質問がしやすいなど個への対応で学びを実感し、学習意欲を高めることができた。
- 3問テストで家庭学習の内容や既習事項、本時の内容に関連する事項等を確認することで基礎・基本の定着につながった生徒が見られた。
- 全国学力・学習状況調査「生徒質問紙」の結果より、「めあて・ねらいの明確化」について昨年度の 75%から今年度の 79.2%に向上が、「振り返りの活動」について昨年度の 59.4%から今年度の 66.7%に向上が見られたことから、生徒も鬼怒中スタイルの授業を実感していることがわかった。
- 全職員が鬼怒中スタイルの授業を意識し、家庭学習の課題を工夫したり、3問テストの内容を精選したりするなど、生徒の学習意欲が高まるような授業改善に努めることができた。

【課題】

- 教科や単元毎に特性があるため、全ての授業で家庭学習と連動させることはできなかった。既習事項との関連は学習意欲を高める上で大切なものであり、基礎・基本の定着に不可欠なものであると考える。教科や単元の特性に合わせて学習意欲を高められる課題設定の工夫やより効果的に家庭学習を関連付けられるような授業改善が図れるようにさらに研究をすすめたい。
- TTや少人数指導において、授業者間で役割分担を明確にして授業に臨んだが、全員の学習意欲を高めるには至っていない。グループ活動など学習形態を工夫し、一人一人と接する機会を増やすことで、学びを実感させたり、わかる喜びをより多く与えたりして、さらなる学習意欲の向上につなげたい。

研究同人

平成27年度

中島 哲夫	根本 守	蛸原 哲也	小林 明美	國府田裕次郎	澤辺 雄一
来栖 信征	坂入 朋子	風見 陽子	篠崎加奈子	浅見綾希子	出野 明彦
桜井 淳	齊藤 雅	能城 光子	倉持 克矢	篠塚 恵子	荒川 直子
高橋 裕史	寺田 弘太	金子 千恵	助川 美也	相澤めぐみ	齊藤 健太

平成26年度

古井 忍	張替 房代	内海 武利	海老沼遥香	小和英里佳	富田 直道
------	-------	-------	-------	-------	-------

平成25年度

川村 始子	松田 隆男	松本 和樹	岡野 敏幸	加藤 秀和	小島 藍
横島美知子	落合 美帆	徳田 江里			